

登録コード	HM239102	開講年度	2026				
授業題目	老年保健学演習C					担当教員	横川 吉晴
英文授業名	Practice in Geriatric Health Science C					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・5時限 金曜・6時限	対象学生	老年保健学ユニット／1年次
講義室				授業形態	演習	備考	選択科目
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	(授業の達成目標)
	2026HM保健学分野加, 2025HM保健学分野加, 2024HM保健学分野加, 2023HM保健学分野加						
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力					⇔	研究課題にかかる問題を発見し、解決方法を提案することができるようになる
(2)詳細/Detailed information	日常生活の自立した健康な高齢者やより活動能力の高い高齢者，そして自立をしているもののADLの一部に援助が必要と考えられる虚弱高齢者などを対象に，身体活動能力を測定評価し，さらには維持向上させる介入の方略を修得する。						
(3)授業の概要/Overview of course	地域社会における高齢者の体力・活動能力の実態とその関連要因の解明，縦断的研究による生体諸機能や身体健康指標の加齢過程およびその関連要因の分析，老年症候群の危険因子の究明，健やかな高齢社会のための手立てや政策の樹立を目的とした地域介入研究を中心とする文献レビューを行う。 在宅で自立した生活を送る高齢者の様々な社会活動支援プログラムや，転倒予防などの健康教育プログラムに関するフィールドワークを通して，理論の妥当性，計画と実施プロセスの一貫性，成果の各段階を評価する手法を学習させる。 以上の課題について演習形式で指導する。						
(4)授業計画/Course plan	第1回～第6回：研究テーマと文献レビュー 第7回～第10回：測定方法の演習 第11回～第13回：フィールドワーク（研究協力地域における測定の実際を学習する） 第14回～第15回：研究デザインと研究計画						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	授業やディスカッション等への参加活動内容およびレポートにて総合的に評価する。 毎回の小テスト30%，レポート課題30%，期末試験40%。レポートの評価基準は以下の通りとする。 (i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。期末試験の評価基準は以下の通りとする。授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」，応用問題が解ければ「やや上にある（良）」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」，例題よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	積極的に準備，活動することを期待します。 毎回リーディング課題を課す。授業開始直後にその理解を問う小テストを行うので，それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	質問・相談は，随時，対応します。 メールアドレス：fhakuba@shinshu-u.ac.jp						
(8)授業の形式/Course format	発表，討論，演習を中心にすすめる。						